



Letter from SUDAN

vol.2

الرسالة من السودان



夕暮れ時のナイル川。岸ではたくさんの方がのんびりとした時間を過ごしていますが、その傍らにはゴミがたくさん。

1 はじめに

アッサラームアライクム！（こんにちは）青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動・千頭佐和子です。

スーダン共和国の首都ハルツームの青年スポーツ省に所属し、ユースセンターや学校を巡回しながら青少年にスポーツ振興を行う活動をしています。

現在夏のスーダン（4月～7月）は、日中の気温が45度強でとても暑いですが、湿度は1桁台と、かいた汗もすぐ乾くほどカラッとしているので、日本のようなジメジメ感はなく、思ったより過ごしやすい印象です。

それでも強烈な日差しと気温は容赦なく体力を奪い、活動先まではバス+徒歩で向かいますが、到着した時にはすでにぐったりです。

このレターではスーダンでの出来事や感じたこと通して、みなさんの中のスーダンやアフリカのイメージが少しでも身近なものに変わってくれたらいいなと思います。

2 平和を願うイスラム教とスーダン

イスラム教は唯一神「アッラー」を信仰し、信者数はキリスト教の21億人に次いで第2位の17億人、世界人口の約4人に1人はイスラム教徒「ムスリム（女性はムスリマ）」ということになります。

「イスラム」という言葉は「神への帰依」という意味ですが、もともとは「平和」という意味も含まれており、アッラーに全てを委ねて日常生活の中で自分自身を磨き（在家信仰）、人類のあるべき姿・平和な秩序ある世界を目指す宗教です。

日常の挨拶の中にもその精神が現れています。アラビア語の“こんにちは”「アッサラーム アライクム」は直訳すると「あなたがたの上に平和を」という意味で、語尾の“クム”は複数形を示しており、本人だけでなく、家族・友人みなさんの平和も祈っています、という意味になります。そして、「ワライクムッサラーム（あなたがたの上にも平和を）」と返します。

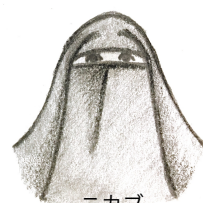
スーダンは人口の約97%がイスラム教徒です。日常生活の中に信仰が組み込まれており、意外にもその方法はひとそれぞれ・多種多様です。

たとえば、女性が着用するベールに焦点を当ててみると、パンツスタイルにタルハ（ヒジャブ）を軽く巻いているだけの女性もいれば、黒のワンピース（アバヤ）にニカブを着用している女性もいます。信仰は自分自身のために自発的に行うものであり、他人が自分と違うからといって強要したり、差別したりしません。

日本人にとってイスラム教はあまりなじみがなく、怖いイメージがあるかもしれませんが、本来イスラム教はおおらかで多様性があり、平和を願う宗教であることがわかります。



タルハ
(ヒジャブ)



ニカブ

3 活動先紹介① サハーファユースセンター

現在私は3ヶ所のユースセンターを巡回してスポーツ振興を行っています。スーダンでは一般的に学校のカリキュラムに体育の授業がない（日中は暑すぎてスポーツができない）ため、子どもたちは夕方4時ごろ涼くなってから地元のユースセンターに集まり、スポーツを楽しんでいます。

今回ご紹介するサハーファユースセンターはジム、体育館、屋外コート、プールがあり、ハルツーム市内でも有数のスポーツに特化したユースセンターです。

ここでは青年男子バレーチームのフィジカルコーチと少年サッカーコーチ、現在夏休み限定のサマーキャンプで小学生の女の子向けバレー教室を行なっています。

サマーキャンプは長い夏休み（3～6月）を利用して小学生（スーダンでは8年生まで）を対象に行われているプログラムで、朝からコーランの勉強や、スポーツをしています。

私が担当している女の子バレー教室は週に1回90分のクラスでしたが、私一人に対して子どもたち60人、年齢は5歳から14歳、ボールは5個。

練習メニューを組んではみるものの、言葉の壁、幅広い年齢層、人数の多さに対応できず、全員に気を配ることができなくて教室が崩壊してしまうこともしばしば。

それでも子どもたちは、私の未熟な行き渡らない指導でも、少ないボールでも、すごく楽しそうに遊んでくれて、1週間後だと遠すぎるから明日も来て！！と言ってくれます。

できない理由をつければ色々言い訳はできますが、私は私ができることを全力でするんだ、と子どもたちの笑顔に毎回励まされています。



奥にはスーダンでは珍しい体育館。



気温45度を超える夏場はプールも大人気！



青年男子バレーチーム。ほとんどが190センチを超えています。

4 スーダン・夏の風物詩！？ ハブーブ！！

砂漠の国・スーダンにも季節があります。と言っても、ほとんど「暑い」か「すごく暑い」のどちらか。

4月～7月はスーダンでも気温45度を超える「すごく暑い」夏に当たるのですが、この季節によく起こるのがハブーブ（砂嵐）です。

去る3月29日に私もスーダンに来て初めて体験しました。朝起きると窓の外が暗く、夕方まで寝てしまった！！と思い飛び起きると、砂で太陽が遮られ、日が当たらない状態。

慣れない私は目も鼻も喉も砂にやられているのに、子どもたちは頭に砂を積らせながら、いつも通り元気にたくましく遊んでいたのです。



100メートル先も見えない！ですが、バスは普段通り運行中。

5 ブログをはじめました。

「JICAボランティアの世界日記」でブログを書かせていただいています。暇で暇でたまらない時に、ご覧いただくと嬉しいです。

<http://world-diary.jica.go.jp/chikamisawako/>



2018.05.31



千頭佐和子（ちかみさわこ）

高知県高知市、1982年11月生まれ。青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動。JFA公認サッカーC級コーチライセンス保有。アフリカ北東部にある青ナイル川と白ナイルの合流点に位置する砂漠の国スーダン共和国にて活動中。高知の建設機械会社で11年間広報業務に従事、平日の夜と週末はサッカー漬けの生活を送っていたが、スポーツの素晴らしさを子どもたちに伝えるべく、現在は首都ハルツームにあるユースセンターや学校で、青少年へのスポーツ振興を行っている。